

環境

大気汚染を防ぎ、市民の健康を守れ

降下ばいじんの発生源を特定し、根本的な解決を



ベランダに積もった鉄粉
=新涯町

福山市では長年、降下ばいじん被害の苦情が絶えません。ばいじんの発生源を特定し、低減に向けた対策が求められます。

市内には、全国でも有数の生産力をもつJFEスチール西日本製鉄所があります。工場内のばいじんなどの測定分析やふんじん飛散防止対策の解析結果を公表し、原 料密封型施設など世界水準の飛散防止対策を取り入れるよう要請す

る」と市に求めました。
市は「事業所が判断すべき」との答弁でしたが、行政として事業所

ぜんそくの慢性化を防ぐための支援を

近年、小児ぜんそくがなかなか完治しない例が多くみられます。大気汚染がぜんそくに及ぼす影響について国に実態調査を要望することと、慢性化を防ぐため児童生徒の治療状況を調査することを

市に求めました。
また、「小児慢性特定疾病医療費助成制度」は、発作が特にひどい場合などに限られるため、安心して治療が続けられるよう、医療費助成の充実を求めました。

国保

払える国保税で、命とくらしを守る福山市に

赤ちゃんにも税金が…

全国では5割が引き下げ

福山市は、今年度の国民健康保険税を1人平均1907円増額し、10万5775円とします。

基金を使い、予算案よりは増額分を153円低く抑えましたが、昨年に続く引き上げです。

国保加入者の生活が厳しさを増すなか、国保税を払えず病院に行けない人をますます増やす恐れがあります。

2011年度から2016年度を比べると、総所得100万円以下の世帯が増え続け、加入世帯の6割を超えてい

40代夫婦と子ども2人の場合		
年収	国保税	協会けんぽの健康保険料(折半額)
250万円	30万2600円	13万8840円
400万円	48万5100円	23万6028円

な負担軽減が必要です。

頭髪や服装、下着の色まで厳しく管理・指導し、子どもの心を傷つけたり、人権を侵害したりする「ブラック校則」が全国的に問題になっています。

鞆の浦が日本遺産に！



鞆町が近世港町として日本遺産に選定されました。江戸期の港湾施設5点(写真)すべてが現存するのは鞆の浦だけです。

しかし市は、日本遺産の構成文化財の申請に「焚場」を含めていませんでした。

日本共産党市議団は、文化庁に経緯を確認。追加申請するよう市伝建保存審議会で求め、市は「追加申請の是非を文化庁と協議する」と答えました。

港湾5点セットを大切に

教育

子どもが主役の学校に

生徒指導規程 子どもの権利を尊重せよ

7月の西日本豪雨は、福山市内にも大きな爪痕を残しました。

この大災害を痛苦の教訓として、防災体制を抜本的に改善し、1日も早い復旧と被災者への物心両面での支援に尽力をあげることが政治の責任です。

日本共産党市議団は、これまで土砂災害対策や河川・ため池改修の予算増などを議会で強く求めてきましたが、災害に強いまづくりに向か、全力を尽くす決意です。

「ブラック校則」が全国的に問題になっています。

福山市では、「例外なき厳罰主義」にもとづく生徒指導規程が定められ、学校内での中学生の逮捕で「各学区・各学校の実態、外国籍やLGBTなどの多様性や違いを認めあう社会への変化などをふまえ、児童・生徒が主体となって『考え方作り』する』ものに作り直す必要がある」と答えました。

認めた社会への変化などをふまえ、児童・生徒が主体となって『考え方作り』する』ものに作り直す必要がある」と答えました。

被災者の声を届ける

福山市は、内海・沼隈地域の小・中学校7校を統廃合し、一つの中一貫・義務教育校とする計画を進めようとしています。

施設一体型の大規模一貫校は、子どもの発達に及ぼすデメリットも指摘されています。地域住民や

保護者の合意なしに統廃合を強行することは許されません。計画の撤回を強く求めました。

広島県への緊急要望 7月9日

▼県管理の河川や砂防ダムの緊急点検と土砂の撤去ため池改修補助予算の増額

▼土砂災害等危険箇所の緊急点検と整備予算の増額

▼高速道路料金の無料化など

▼「支援制度」配布や総合相談窓口の開設

▼床下浸水被害も対象に、災害見舞金の増額

▼除菌液配布の周知、送風機・乾燥機の貸与、給水パックや使い捨てトイレの提供

▼排水ポンプ機能の検証など

▼「り災証明書」発行の無料化・簡易化・迅速化

▼住宅以外の被害の補償

▼行政による住宅の土砂撤去

▼市営住宅の戸数増など避難者の入居施設の提供増

▼県・市の融資制度の無利子化

▼医療機関・介護サービスなどの窓口負担金の無料化など

福山市への緊急要望 7月13日